ユネスコ創造都市ネットワーク
メンバーシップモニタリングレポート
2017-2021
最終提出版（和訳版）

2021/12/20

I. 要旨

山形市には、世界的に有名な山形国際ドキュメンタリー映画祭をはじめ、映像文化を育む豊かな環境があります。また、映画分野だけでなく、多彩な文化芸術が存在しています。山形市の創造的な取り組みを推進する中心的な組織である「山形市創造都市推進協議会」は、創造産業をはじめ、大学、放送局、新聞社、観光協会、市などの21団体で構成されています。山形市の映画、文化財、創造性を中心とした多彩な文化が評価され、2017年10月31日に日本では初めてのユネスコ映画都市となりました。

山形市は、経済、社会、文化、環境の側面において、創造性を持続可能な開発の戦略的要素として積極的に活用してきました。映画制作への継続的な支援は、山形の多様な文化の魅力を紹介し、映像制作者や観光客が山形を訪れる意欲を生み出すことで、地元経済や観光産業に利益をもたらしています。市は、コミュニティラーニングを未来への原動力と考えており、また、映画プログラムを提供する山形大学と東北芸術工科大学の2つの大学に誇りを持っています。山形国際ドキュメンタリー映画祭は、1989年以来、常にクリエイティブな人材の拠点として、また、多様性を重視し、2030アジェンダの実現に向けた課題も含め、映画を通じて国際的な課題に取り組むことで高い評価を得ています。市は、都市間および国際協力を促進するためのさまざまなプロジェクトを実施し、日本国内外においてUCCNに加盟した山形市の知識と経験を共有しています。

山形市は、UCCNのミッションステートメントと持続可能な開発目標を実現すること、そして文化と創造性を鍵とするネットワークの発展を支援することに、引き続き取り組んでいきます。

II. 基本情報

- 2.1 都市名：山形市
- 2.2 国名：日本
- 2.3 創造分野：映画
- 2.4 加盟認定日：2017年10月31日
- 2.5 報告書の提出日：2021年11月30日
- 2.6 報告書作成責任者名：山形市長 佐藤孝弘
- 2.7 前回提出した報告書及び提出日：なし
- 2.8 担当者の連絡先（以下を含む）：

- 加盟都市としての日常業務を担当する指定の担当者、及び
- 指定の担当者が市役所に勤務していない場合、市役所内で、連絡役*1 を務める市役所職員の連絡先を含めること

三條 恵美

山形市企画調整部次長（兼）文化振興課長

Email: bunka@city.yamagata-yamagata.lg.jp

Tel: 023-641-1212

山形市旅籠町 2-3-25

2.9 市の取り組みの普及を担当する、市役所内の広報担当者

山川 渉

文化振興課長補佐（兼）創造都市推進係長

Email: creative-yamagata@city.yamagata-yamagata.lg.jp

Tel: 023-641-1212

山形市旅籠町 2-3-25

III. プログラムの国際的運営への寄与

3.1 過去 4 年間の UCCN 年次総会出席回数（定期的な参加は義務）

2018 – クラクフとカトヴィツェ（ポーランド）

2019 – ファブリアーノ（イタリア）

2020 – サントス（ブラジル）※ 新型コロナ感染拡大により延期

2021 – サントス（ブラジル）※ 新型コロナ感染拡大により延期

※ 山形市は 2021 年に開催された 2 日間のオンラインミーティング「ユネスコ創造都市：新型コロナからのより良い回復への道のり」に参加し、世界の良い事例を学びました。

3.2 以前または将来の UCCN 年次総会の開催

なし

3.3 UCCN の創造分野の代表者 1 人以上を対象とした作業部会または調整会議

（特にサブネットワーク会議）の開催

なし

3.4 ネットワーク加盟都市が多数参加するような、創造都市の顕著な問題に関する国際会議やミーティングの開催

山形市の国際プロジェクトの一つとして「やまがた創造都市国際会議」を毎年開催し、国内外の創造都市担当者や映画関係者を招き、映画や創造都市をテーマとしてシンポジウムを開催し、映像文化が有する創造性や可能性、都市の未来について考えて参りました。

これまでにゲストとして参加した創造都市は以下の通りです。

2017 (加盟直前に開催) : ボローニャ (音楽都市)

2018 : ブラッドフォード (映画)

2020 : プサン (映画)

2021 : 鶴岡市 (食文化)、バリアドリード (映画)

特に 2020 年度は、アーカイブ配信で開催し、シンポジウムには英語字幕をつけて配信しました。YouTube のアナリティクスによると、全体の視聴者のうち 66% が海外からでした。(2021 年 11 月時点)

3.5 ユネスコに対し、管理、コミュニケーション及び可視性を含む様々な分野における UCCN の持続可能性を強化するための財政的及び/又は現物による支援 (日付、貢献の種類、事実上の金額または見積金額、主な目的など)

なし

3.6 分野コーディネーターまたは副コーディネーターとしての実績および期間

なし

3.7 以前の申請書の評価 (申請書募集ごとに評価した申請書の数) 、および/または以前のメンバーシップモニタリングレポートの評価 (評価実施ごとに評価したレポートの数) への参加

申請書の評価

2019 : 2 都市

2021 : 2 都市

モニタリングレポートの評価

2020 : 3 都市

2021 : 1 都市

IV. UCCN の目的を達成するために地域および都市レベルで実施された主要な取り組み

UCCN の目的を達成するために市の創造分野及びその他の関連分野で実施された主な取り組み、パートナーシップ、措置及び政策、並びに 2030 アジェンダの実施について、過去 4 年間に、以下における認定の影響に特に注意を払いつつ、要約すること。

- 特に官民セクターと市民社会が関与する参加型アプローチとパートナーシップを通じ、文化と創造性を持続可能な開発のための都市政策と行動に不可欠な要素とすること
- 創造経済の強化、特に文化財・サービスの創造、生産、流通、および享受
- 特に社会から取り残された、あるいは弱い立場にあるグループや個人のために、文化的生活へのアクセスと参加を改善し、若者の関与とジェンダーの平等を促進すること
- 創造性と革新の拠点を整備し、文化部門のクリエイターと専門家の機会を拡大すること
- 文化と創造性を地域の開発戦略、政策、計画に取り入れること
- UCCN への認識を高めるとともに、持続可能な都市開発における文化と創造性の影響を強化し、この特定分野における研究、分析及び普及を支援すること

UCCN の目的を実施するために過去 4 年間に実施された主な取り組みのみを提示すること。報告書では、市の過去 4 年間の行動計画で示された取り組みの成果と影響にできる限り焦点を当てるべきであるため、結果に基づくアプローチをとることが推奨される。

また、イノベーション、開発、教育に焦点を当て、実施された様々な取組を紹介する映像や写真などの音声・映像による追加的な補助資料も歓迎する。

また、加盟都市は、a) 地域の文化的・創造産業（特に認定分野における）の都市の発展への貢献(GDP への貢献、雇用、文化への参加、文化への公的支出など)、および/または b) 地域レベルでの認定の影響、および/または c) 都市の創造性に関する指数または指標について、別添の比較データおよび統計（4 年間の進捗状況）に示すことが強く奨励される。これらの分野における研究は、ネットワーク内での共有と相互学習のために特に奨励される。

4.1 山形市 - 映像制作のベストサポーター

山形市は、UCCN ミッションステイトメントへの貢献の一環として、「映像で山形ルネッサンス」と「山形フィルム・コミッション」という 2 つの独自のプロジェクトで映像制作を積極的に支援しています。

映像で山形ルネッサンス

「映像で山形ルネッサンス」は、山形市の多様な文化の魅力を紹介し、地元の映像制作者を支援する映像制作プロジェクトです。伝統工芸、食文化、芸能などのテーマに焦点を当て、分野横断的なコラボレーションも推進しています。映画を世界に広めるために、プロジェクトには1) 映画の無償提供・貸与、2) 日本語原版と英語字幕版の制作、3) [公式 YouTube チャンネル](#)に過去の作品をアップロード、という3つの特色があります。

このプロジェクトで制作された作品は、世界的に有名な山形国際ドキュメンタリー映画祭をはじめ、国内外の上映イベントなどで幅広く上映されています。2019年から2021年には、毎年開催されるブサンインターシティ映画祭の上映作品に選定、上映されました。「山形文化のルネッサンス」につながる映画制作を通じて、山形市の文化を再発信することを目指しています。

山形フィルム・コミッション

美しい自然や景色、歴史的建造物に恵まれた山形市は、その多様な姿から撮影地としての人気が高まっています。「山形フィルム・コミッション」は、山形市周辺の地域での撮影を希望する映像制作者にとって最高のパートナーとなっています。山形市のほか、近隣5市と2町を加えるなどサービスを拡大し、より充実した撮影ニーズに応えています。映画やテレビ番組を地域に誘致し、地元の企業が利用されることで雇用を創出し、地域への出資を増やす効果があります。その中には、宿泊費、地元のレストランやホテルでの支出、車や機材のレンタル費、その他多くのサービスが含まれます。さらに、東北芸術工科大学の生徒がスキルを磨くためにクルーとして参加し、450人以上の登録している市民エキストラがこの非日常的な体験に参加しています。これまでに800以上の制作チームを支援し、毎年100件以上の問い合わせをいただいています。2018年と2019年には、タイで最も人気のあるドラマ「ダンドゥアンハルタイ」や、マレーシア、日本と共同制作した台湾映画「越年 Lovers」などの海外制作チームを支援しました。

さらに、ロケ地めぐりによる映画観光からも多くの恩恵がもたらされています。例えば、山形市は「山形市ロケ地マップ」を発行し、映画のロケ地を紹介することで映画観光を盛り上げ、文化体験の多様性を促進することでクリエイティブな観光客を誘致しました。日本語と英語を併記し、より多くの観光客を誘致する可能性を最大限に高めています。「山形フィルム・コミッション」は、映像制作者や観光客に山形市を訪れる強い意欲を生み出し、地元経済や観光産業に利益をもたらしています。

山形市は、上記の支援プログラムが、ユネスコ創造都市ネットワークのミッションステートメントの以下の目的を達成するための試みであると考えています。

一 創造性を都市開発の不可欠な要素とするために、特に民間部門、公共部門、市民社会が関わるパートナーシッ

プを通じて、加盟都市が率先して取り組む活動を促進・強化する

ー 文化活動・財・サービスの創造・生産・流通・普及を強化する； および

ー 創造性とイノベーションの拠点を発展させ、文化分野のクリエイターや専門家のためのチャンスを拡大する

これらのプロジェクトは、4、8、11、17の持続可能な開発目標の達成を目指します。

4.2 山形の未来を担うコミュニティラーニング

山形市はコミュニティラーニングを、持続可能な都市開発と山形市の将来を支える重要な推進力と考えています。そこで、「子ども映画ワークショップ」「クリエイティブカフェ」「やまがた市民映画学校」「クリエイティブ会議」の4つのコミュニティプロジェクトを展開しています。

子ども映画ワークショップ

山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局との共催で、「子ども映画ワークショップ」を2011年から毎年実施しています。子どもたちを対象に、1) シンプルな映写機の作り方、2) アニメーションフィルムの制作方法、3) 手作りの映写機に手書きのフィルムを投影する方法などを学ぶワークショップで、この過程を通して、子どもたちは映写の仕組みや技術を学び、体験することができます。

クリエイティブカフェ

「クリエイティブカフェ」は、映画やUCCNの他の創造分野、創造性を都市開発の戦略的要素にするための取り組みなど、さまざまなテーマを扱うトークイベントやワークショップのシリーズです。都市の文化を見直し、文化の役割を考える機会を提供し、創造力を生かした地域づくりを目指しています。このプロジェクトでは、公共セクター、民間セクター、専門家、クリエイター、学校、市民からゲストスピーカーを招くことで、パートナーシップがさらに強化されました。過去の講演者は、映画監督、大学教授、作家、音楽家、ダンサー、高校生、現代におけるサムライなど多岐にわたります。この事業は2020年からオンラインで開催され、世界中の幅広い年齢層から参加者が集まりました。

やまがた市民映画学校

「やまがた市民映画学校」は、映画をはじめとする文化生活への市民のアクセスと参与を向上させる目的で開催されており、2016年にゲストトークを交えた上映会として始まりました。2017年度のゲストには、日本の有名な映画監督の大林宣彦さんや、数々の賞を受賞した映画監督で東北芸術工科大学の理事長の根岸吉太郎さんを迎えました。2018年以来、市民に開放的な空間での特別な映画体験を提供するために、野外上映会を組み入れています。2018年には山形国際ドキュメンタリー映画祭の高校生ボランティアチームの主導で、山形市で最も有名なロケ地である文翔館での上映会が行われました。2019年には、山形国際ドキュメンタリー映画祭のプレイベントとして、市内最大級の夏のイベント「山形花笠まつり」と野外上映会を同時開催し、市民と文化イベン

トとのつながりを深めました。さらに、新型コロナウイルス感染症が発生した後も、山形市は 2020 年と 2021 年、新型コロナウイルス対策を施した環境でも映画を楽しむ方法として、野外上映会を継続して実施しました。

クリエイティブ会議

クリエイティブ会議は、山形市創造都市拠点施設整備事業「Q1」（11 ページ参照）のコンテンツのひとつで、創造性と産業を日常生活の中でどのように結びつけるかを議論し、その議論を山形の持続可能な社会に反映させることを目的として開催しています。研究者やクリエイター、企業の方々が、ここ山形で何を展開していくべきかを幅広く議論し、持続可能な創造都市を構築するために、興味深いアイデアを実現していくオープンな企画会議として開催しています。

山形市は、上記の地域への取り組みが以下の UCCN のミッションステートメントに貢献していると考えています。

- 一 文化的な生活へのアクセス及び参加並びに文化的な物品又はサービスの享受を向上させ、並びに若者の参画を促進すること；
- 一 特に官民セクターと市民社会が関与するパートナーシップを通じて、文化と創造性を持続可能な開発、政策、行動に不可欠な要素とすること；および
- 一 創造性と革新の拠点を発展させ、文化分野のクリエイターや専門家のためのチャンスを拡大する

これらのプロジェクトは、4、8、11、17 の持続可能な開発目標の達成を目指します。

V. UCCN の目的を達成するために都市間および国際レベルで実施された主要な取り組み

ネットワークの目的を達成するため、また、持続可能な開発のための 2030 アジェンダに沿って、過去 4 年間にユネスコ創造都市と協力して実施した主な取り組み、パートナーシップ、プロジェクト、交流プログラム、措置及び/又は研究を要約すること。

上記（IV 記載）の UCCN の目的を達成するために、期間中に実施された主な取り組みを、結果に基づくアプローチのもとに報告すること。この報告書は、創造都市における都市間および国際協力の取り組みの成果と影響にできる限り焦点を当てるべきものである。

5.1 山形国際ドキュメンタリー映画祭

山形市は山形国際ドキュメンタリー映画祭の本拠地であり、山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを有しています。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 (YIDFF)

「山形国際ドキュメンタリー映画祭 (YIDFF)」は 1989 年に山形市の市制 100 周年記念行事として開始し、以来 2 年に一度、山形市で最も美しい季節の 10 月に開催されています。この映画祭は、ドキュメンタリー映画に特化したアジアでも数少ない映画祭の一つです。しかし、その対象は、単に国際・コンペティションにおける最近の革新的な作品を上映するだけにとどまりません。アジアの新進気鋭の映像作家たちを紹介するコンペティションプログラム「アジア千波万波」は、長年にわたり、生き生きとしたエネルギーに会う場として注目を集めています。コンペティション部門だけではなく、映画制作の歴史と多様性に光を当てる特別プログラムやイベントも行っています。こうしたプログラムを通して、ドキュメンタリーという表現形式について議論を交わし、既存の映画とは異なる、自由で独立したノン・フィクション映画制作のための新しい場を生み出すことに積極的に取り組んでいます。2018 年には、YIDFF はアカデミー賞®の長編ドキュメンタリー映画部門の公認映画祭に選ばれました。国際・コンペティションとアジア千波万波の最高賞を受賞した作品は、アカデミー賞のエントリー権を得ることができます。2021 年の映画祭は新型コロナ感染症拡大の影響でオンラインとなりましたが、創造性を活用し、山形市ならではのプログラムをオンラインで提供しました。(詳細は 17 ページ参照)

この映画祭は、ユネスコ創造都市が掲げる使命に以下の点で貢献します。

- 一 特に官民セクターと市民社会が関与するパートナーシップを通じて、文化と創造性を持続可能な開発、政策、行動に不可欠な要素とすること;
- 一 文化活動・財・サービスの創造・生産・流通・普及を強化する; および
- 一 創造性と革新の拠点を発展させ、文化分野のクリエイターや専門家のためのチャンスを拡大する

また、YIDFF で上映される映画は、世界中のさまざまなテーマを扱っているため、本プロジェクトは**すべての**持続可能な開発目標に貢献するものと考えています。

年	2017	2019	2021 (オンライン)
応募作品数	1,791	2,371	1,972
上映作品数	161	176	49
参加国・地域	128	130	124
観客数	22,089	22,858	21,790

*山形市が UCCN の認定を受け、ユネスコ映画創造都市として国際的に認められたことから、2019 年の YIDFF への応募作品数は過去最多の応募数となりました。2021 年は、新型コロナ感染症拡大の影響下にありながら、世界各国から 1,972 作品が集まりました。

山形ドキュメンタリー・フィルム・ライブラリー

山形国際ドキュメンタリー映画祭に出品された作品をはじめとする優れたドキュメンタリー作品を収集・保存するための施設です。山形市はこれらのドキュメンタリー作品を、次世代の貴重な文化資源としてとらえ、市民や映画ファンが無料で鑑賞できる空間を提供しています。設備の整ったシアタールーム、個人がビデオを見ることができるビデオブース、関連書籍や資料など、充実した設備を備えています。YIDFF が月 1 回主催する「金曜上映会」では、所蔵作品を上映し、市民にドキュメンタリー映画に親しむ時間を提供し、日常生活に映画を取り入れています。2021 年現在、19,000 本以上の映像が保管されており、市民、学生、研究者がフィルム・ライブラリーを訪れています。

5.2 山形 — 世界の窓

世界的に有名な YIDFF に加え、「やまがた創造都市国際会議」、「やまがたアーティスト・イン・レジデンス」、「やまがたフィルムパッケージ to the world」の 3 つのクリエイティブ事業を展開することで、都市間協力や国際協力を推進しています。

やまがた創造都市国際会議

「やまがた創造都市国際会議」は、これまで国内外の創造都市の担当者や映画関係者を招き、映画や創造都市をテーマとしたシンポジウムを開催し、映画文化が有する創造性や可能性、都市の未来について考えてきました。創造性がどのように持続可能な都市の発展において貢献できるかを議論し、創造都市ネットワークの理解を深めます。市民にとっては、国際社会の一員としての自覚を醸成し、社会問題に対して共に取り組もうとするビジョンを共有する場となります。

過去の会議では以下のテーマを実施、パネリストを招聘しました：

年度	テーマ	パネリスト
2017	クリエイティブ・ツーリズム - 文化資産の活用 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 同時開催	アンドレア・メネゲッリ チネテカ映像アーカイブ責任者（音楽都市ボローニャ） テディ・コー 映像研究者、アーキビスト、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 アジア千波万波審査員 葉山茂 大学利用機関法人人間文化機構総合人間文化研究推進センター研究員 国立歴史民俗博物館特任助教（併任）

		<p>渡邊 竜一</p> <p>株式会社フィディア総合研究所理事、株式会社アジア・メディアプロ モーション代表取締役</p>
2018	<p>映像文化創造都市の可能性 – “映画”が都市を魅力的にする</p> <p>全国コミュニティシネマ会議 2018 同時開催</p>	<p>佐藤孝弘</p> <p>山形市長</p> <p>デヴィッド・ウィルソン氏</p> <p>ブラッドフォード創造都市ディレクター</p> <p>キム・ヒョンス氏</p> <p>コーナーシアター代表（映画都市プサン）</p>
2019	<p>世界とつながる映画のチカラ</p> <p>山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 同時開催</p>	<p>大友啓史</p> <p>映画監督・脚本家</p> <p>眞島秀和</p> <p>俳優</p> <p>倉崎憲</p> <p>NHK ディレクター</p>
2020	<p>未来をひらく映画のチカラ</p> <p>*オンライン配信</p>	<p>篠原哲雄</p> <p>映画監督</p> <p>橋本マナミ</p> <p>俳優</p> <p>キム・ジゴン</p> <p>映画監督（映画都市プサン）</p> <p>キム・アニカ</p> <p>映画都市プサン担当者</p> <p>司会：三浦剛</p> <p>カンタナジャパン代表取締役</p>
2021	<p>食と映画のチカラ</p> <p>*オンライン配信</p>	<p>奥田政行</p> <p>アル・ケッチャーノ オーナーシェフ</p>

	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021 同時開催	山口美香 野菜ソムリエ 上級 Pro 想田和弘 映画監督 Juan Manuel Guimerans Rubio 映画都市バリエードリード担当者 地元応援クリエイターチーム BAQSAN 司会：香坂あかね アナウンサー
--	---------------------------	---

やまがたアーティスト・イン・レジデンス

「やまがたアーティスト・イン・レジデンス」とは、国内外のアーティストを山形市に一定の期間招聘し、アーティストの創作活動を支援するための場所や資源、ネットワークを提供するレジデンスプログラムです。

2018年の第1回目には、インドネシアとマレーシアの映像作家たちを山形市の温泉地・蔵王に招聘し、制作途中の映画の発展を行いました。彼らは4日間のワークショップに、日本の映像作家5人と、日本の世界的なドキュメンタリー映画監督の想田和弘氏を含む6人の国際的なプロのメンターとともに参加しました。地域プロジェクト「クリエイティブカフェ」（6ページ参照）、小中学校でのワークショップ、地域での上映会などを通じて、山形市民との交流を深めました。さらに、彼らの視点から見た山形市の短編映像を制作しました。

2019年、山形は映画都市プサン、第3回プサンインターシティ映画祭、プサンインディペンデント映画協会との共同プロジェクトとして、韓国のキム・フィグン監督とその制作チームらを10日間にわたって山形市に招き、短編劇映画「リターン」の制作を支援しました。山形フィルム・コミッションが、ロケーションハンティングを支援し、完成した作品は、2019年のプサンインターシティ映画祭、2019年のダバオアジアファンタスティック映画祭で上映されました。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、海外からのアーティストの招聘が困難になりました。山形市は、アフターコロナを見据え、創造性の力で地域の産業を復活させることを考えた結果、日本の映画界の第一線で活躍する篠原哲雄監督と山形県尾花沢市出身の脚本家、阿部美佳さんを招き、山形を舞台にした独自の脚本作りを支援しました。新型コロナ対策を行いながら、市内各所を回り、市民インタビューやシナリオハンティングを実施しました。

新型コロナの感染が続く中、2021年、山形市はYouTubeを世界に向けた広報ツールとして活用し、山形市内の観光スポットの魅力を美しい音楽とともに発信しました。2人のYouTuberピアニスト：161万人のフォロワーを持つ作曲者のよみいさんと、26万人のフォロワーを持つアレンジャーのジェイコブ・コーラーさんをお招きし、この事業を通してYouTubeに計10本アップされた動画の総再生回数は37万回を超えました。

やまがたフィルムパッケージ to the world

「やまがたフィルムパッケージ to the world」は、多様な文化や価値観を共有するというコンセプトのもと、山形市で制作された映画をアジアの発展途上地域や創造都市に届けることで、国際交流や協力に貢献しています。映像で山形ルネッサンス（6ページ参照）で制作された映画を活用し、様々な字幕をつけることにより、より多くの人に見てもらおうという、発展的かつ連続的な取り組みです。2018年からはオンライン交流を取り入れ、映画を通しての議論やコミュニケーションを促進しています。

:

年	2017	2018	2019	2020	2021
地域	パプア州／インド ネシア	パプア州／インド ネシア	映画都市プサン／ 韓国 ※新型コロナ感染 拡大の影響で中止	タイ	伝統工芸都市チェ ンマイ／タイ

このプロジェクトは、ユネスコ創造都市が掲げる使命に以下の点で貢献します。

- 創造性を持続的発展の戦略的要因と認識している都市間の国際協力を強化する
- 特に官民セクターと市民社会が関与するパートナーシップを通じて、文化と創造性を持続可能な開発、政策、行動に不可欠な要素とすること；
- 文化活動・財・サービスの創造・生産・流通・普及を強化する；
- 創造性と革新の拠点を発展させ、文化分野のクリエイターや専門家のためのチャンスを拡大する； および
- 特に社会的に弱い立場にある個人やグループの文化的な生活へのアクセス及び参加並びに文化的な物品又はサービスの享受を向上させる

これらのプロジェクトは、4、8、10、11、17の持続可能な開発目標の達成を目指します。

5.3 その他の都市間連携事業

山形市はこれまでも都市間連携に積極的に参加し、UCCN に加盟した影響や山形市の創造的な取り組みを様々な機会で紹介してきました。また、月に一度開催される映画都市サブネットワークミーティングや日本国内の創造都市の定例会議にも出席しています。

[2017]

- 中国・青島で開催された「2005年東北アジアにおける文化表現の多様性の保護及び促進に関する条約」協議会に参加（6月20日～22日）

[2018]

- 山形市の創造都市担当者の長澤恒平がパネリストとして招かれ、「2018 グローバル創造都市フォーラム in DAEGU」にて山形市の映画都市としての取り組みを発表。（9月18日・19日）
連携：韓国・大邱（音楽都市）

[2019]

- 山形大学とボローニャ大学の連携事業「日本万華鏡 2019」の一環として、山形国際ドキュメンタリー映画祭理事・山形大学副学長の阿部宏慈がボローニャ市（音楽創造都市）を訪れ、チネテカにおいて小川紳介のドキュメンタリー作品の上映と紹介、ボローニャ大学にて山形国際ドキュメンタリー映画祭の取り組みに関する講演を行った。（2月）
- 韓国・プサン（映画都市）で開催された「第3回プサンインターシティ映画祭」に参加し、短編ドキュメンタリー映画『やまがた舞子』を上映（5月31日～6月3日）
- 山形市の創造都市担当者である杉本肇が「青島映画テレビ博覧会」にパネリストとして招かれ、「世界映画首都の将来の発展」をテーマとしたフォーラムに参加し、山形市の映画都市としての事例を紹介（8月25～29日）
連携：中国・青島（映画都市）
- 音楽都市アデレードで開催された Asia Pacific Creative Cities Conference に参加（10月23～26日）
- 山形市の創造都市の英語専門員兼広報担当の愛甲奈美がタイ文化庁主催の「持続可能な開発のための ASEAN 文化創造都市」にパネリストとして招かれ、UCCN への認定の経験や山形市の創造的な取り組みを共有（12月5日～7日）

開催地：タイ・チェンマイ（伝統工芸都市）

[2020]

- 韓国・プサン（映画都市）で開催された「第4回プサンインターシティ映画祭」で短編ドキュメンタリー映画『一期一会～山形のお茶文化～』を上映（12月5日～12日）※オンライン上映

[2021]

- 山形国際ドキュメンタリー映画祭の事務局長である畑あゆみさんが「ミーティングイベント Re:KINO vol.1 山形国際ドキュメンタリー映画祭の歩み」にスピーカーとして登壇し、2019年の国際コンペティション部門から選抜されたドキュメンタリー映画『十字架』を上映（3月6日）
連携：日本・浜松市（音楽都市）
- 愛甲奈美が、「チェンマイ創造都市ネットワークフォーラム 2021」にパネリストとして招かれ、山形がユネスコ映画都市になるまでの過程と影響を発表し、タイ語字幕付短編ドキュメンタリー映画『やまがた舞子』を上映（4月8～10日）
連携：タイ・チェンマイ（伝統工芸都市）※オンライン参加
- 韓国・プサン（映画都市）で開催された「第5回プサンインターシティ映画祭」で短編ドキュメンタリー映画『山形こけし』を上映（9月3日～5日）
- 山形国際ドキュメンタリー映画祭の理事で映画のプロデューサーでもある高橋卓也さんが名古屋市で開催される「第1回 SDGs 映画祭」に招待され、鶴岡の食に焦点を当てたドキュメンタリー映画の上映とYIDFFの歴史について紹介した（11月14日）
連携：日本・名古屋市（デザイン都市）、日本・鶴岡市（食文化都市）

VI. 今後4年間の中期計画案

次の報告サイクルに沿った今後4年間の中期行動計画を提示すること。その中で、市が認定の枠組みの中で、ネットワークの目標を達成すること、また持続可能な開発のための2030アジェンダの実施に向けて取り組む主な計画について述べ、前回のモニタリング・報告期間の進捗状況をモニタリングし、記録すること。

同様の観点から、提案する取り組みは、UCCNのミッションステートメントで明示されている目的と活動分野、および持続可能な開発目標に対応していなければならない。行動計画と提案する取り組みは、現実的で一貫性があるべきである。

6.1 期待される成果と影響を明示しつつ、地域レベルでのネットワークの目的を達成することを目的とした最大3つの主要な取り組み、プログラム又はプロジェクトの提示。

3つの主要な取り組みのうち、2つは認定された創造分野に対応するものでなければならず、1つは横断的な取り組みで、ネットワークが対象とする他の創造分野の少なくとも1つと結びついたものでなければならない。提案された取り組みの説明には、特に、目的、利害関係者、支援対象者、期待される結果と成果を含めるべきである。市の支援を受け、公共および民間セクター、市民社会、専門家団体、文化機関が参画する取り組みが強く奨励される。

山形市創造都市拠点施設整備事業「Q1プロジェクト推進事業」

山形市は、2017年にユネスコ創造都市ネットワークの映画分野に認定されたことを契機に、創造都市の拠点を整備する新たなリノベーション事業を開始しました。

事業の目的は以下の通りです。

1. 山形市の多様な創造文化を発信
2. クリエイターと企業や市民をつなげる場の整備
3. 起業や雇用につながる創造的活動の推進
4. 山形市の創造的な生活へのアクセスと参加の改善

建物は1927年に建設された旧小学校で、国の登録有形文化財に登録、近代化産業遺産に認定されています。シアタールームやライブ配信スタジオ、映像編集室などを備え、クリエイターや市民の映像活動を推進するための環境を整える予定です。また、食文化ワークショップが開けるオープンキッチンや、地元アーティストが作品を制作・展示・販売するオープンアトリエやギャラリー、クリエイターと地元企業をマッチングするサロンなど、多彩なコンテンツを展開する予定です。2022年秋にオープンし、ユネスコ創造都市やまがたの創造力のシンボルのような施設になる予定です。

新市民会館整備事業

山形市民は、文化活動の拠点、舞台芸術の鑑賞の場、山形国際ドキュメンタリー映画祭の会場として、現市民会館に親しんできました。しかし、設備の老朽化のため、建て替えが必要となっています。そのため、山形市は、2028年までに中心市街地に「新山形市民会館」を建設し、文化・芸術活動の振興を図っていきます。これに伴い、現代映像史の集積庫である山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー（7ページ参照）を新市民会館内に移設し、映像関連の研究環境を強化するとともに、市民、学生、研究者、専門家が利用しやすい環境を整備します。

2020年から2028年の間に新市民会館の建設を計画しており、以下の目標を掲げています。

- 1) 旧市民会館の文化芸術活動の拠点として役割を継承・発展させる
- 2) 市民や観光客などが気軽に立ち寄れる機能を設置し、賑わいを創出する
- 3) 誰でも集うことができ、社会的包摂を促進することができる開かれた場を作る
- 4) 創造力を活かした魅力ある地域づくりに貢献する
- 5) 周辺施設との調和により、歴史・文化を感じられる景観を形成する
- 6) 新型コロナウイルス感染症後の世界における感染症拡大防止策を備える

- 7) 文化芸術・教育の多様化による将来のニーズへの対応
- 8) 市民が安心して災害から守られ、災害に強い建物をつくる
- 9) ユニバーサルデザインを取り入れ、誰もが安心して利用できる施設にする

山形市文化創造都市推進条例と山形市文化創造都市推進基本計画の策定

山形市は、文化と創造性を発展の重要な原動力として掲げ、持続的発展が可能な創造都市としてまちづくりに取り組んでいます。一方で、高齢化、文化と芸術の担い手の減少、文化と芸術を産業振興につなげる更なる取組などの課題もあります。これを受けて、山形市は、現在の「山形市文化振興ビジョン」を見直し、「山形市文化創造都市推進条例」を制定し、2022年4月から施行する予定です。文化・創造性を持続的発展が可能なまちづくりのための施策に最大限取り入れ、全市民に創造都市の目標を共有し、市民や事業者など多様な主体の自発的な活動を促進するとともに、世界中のさまざまな団体・個人と連携したプロジェクトを推進していきます。

上記の条例に基づき、山形市は2022年4月から2027年3月までの5ヶ年の「山形市文化創造都市推進基本計画」を策定します。アフターコロナを見据え、持続可能な文化創造都市として市を推進する具体的かつ効果的な施策を展開します。

この条例は、創造性を戦略的な要素として活用し、市民やさまざまな協力者と山形市が、持続的発展が可能なまちづくりに貢献することを支援します。同時に、基本計画は、より強靱な創造都市に向けて市を前進させる推進力としての役割を担い、UCCNを重要な手段として活用していきます。

6.2 国際レベルでのネットワークの目的を達成することを目的とした最大3つの取り組み、プログラム又はプロジェクト（特にネットワークの他の加盟都市を含むもの）の提示

提案された取り組みの提示には、目標、利害関係者、支援対象者、期待される結果と成果を特に含めるべきである。ネットワークにおいて参加が少ない地域及び国におけるネットワークの促進を支援する取組、並びに開発途上国の都市を巻き込んだ取組が強く奨励される。ネットワークが対象とする創造的分野の幾つかを結ぶ横断的な取り組みを示すことができる。

都市間協力を強化するための国際イベント

山形市では、現在の国際映画祭やイベントを発展させ、ネットワーク内外での都市間連携を強化していきます。

山形市で最も有名な映画祭である山形国際ドキュメンタリー映画祭が設立され、世界のドキュメンタリー作家の拠点となって32年が経ちました。山形市民の継続的な支援により、開催年に1億円（約910千ドル）、開催準備年に5,000万円（約45千ドル）の補助金を支出していることが大きな特徴です。映画祭は、多様性を重視し、2030アジェンダの達成に向けた課題を含め、映画を通じてグローバルな課題に取り組むことで高い評価を得ています。この世界的に有名な映画祭を国際協力の中心地へと発展させるため、山形市はユネスコ創造都市で制作された優れた作品を世界中から招待する新しいプログラムを2023年の映画祭から創設する予定です。選定された作品は、公式作品として上映され、日本語と英語の字幕が付けられ、監督、プロデューサー、配給業者、映画館、映画ファンなど国内外の映画関係者に届けられます。このプログラムは、創造都市に住む映像制作者の可能性を広げ、交流を促進し、新たな都市間連携プロジェクトを展開するためのスタートとなる予定です。

また、「やまがた創造都市国際会議」は、2017年から持続可能な都市の発展における創造性と映画の力と可能性をテーマに、さまざまなシンポジウムやプログラムを開催してきましたが、2021年からは、映画がどのようにして他の創造分野を相互に強化していくのか、2030アジェンダの達成に向けて創造性と文化を持続可能なエンジンとしてどのように活用していくのかなど、分野横断的な連携に焦点を当てていきます。2021年のテーマは「食と映画のチカラ」。ユネスコ食文化創造都市鶴岡との連携プロジェクトとして、各食文化を紹介し、異なる魅力を比較し、分野を超えた連携の可能性を発見することを目的に、オンラインでの映画上映、対談、パネルディスカッションをライブ配信しました。今後も、創造都市の担当者、専門家、創造文化産業の実践者を招待し、この会議は創造都市間の新しい分野横断的コラボレーションの舞台となる予定です。

ネットワークの発展

日本初、そして唯一のユネスコ映画創造都市として、山形市は認定以来、UCCNの発展、特にネットワークへの参加を希望する候補都市への支援を続けてきました。

山形市創造都市推進協議会の事務局や役員がUCCNに加盟した影響や山形市の創造的な取り組みを国内外で広く紹介してきました。同事務局所属の英語専門員の愛甲奈美が、旭川市のユネスコ創造都市ネットワークへの申請書にアドバイスを行い、英語への翻訳を行いました。その結果、2019年10月に旭川市はデザイン分野でネットワークに加盟を果たしました。

山形市は今後も、国際ネットワークの一員であることの意義や強みを発信するとともに、国内外の出願都市の視察の受け入れや、アドバイス、経験・知識・ベストプラクティスの共有などを通じた支援を行い、ネットワークの充実を図っていきます。また、国内の創造都市間の連携を強化し、各都市の得意とする分野を生かした相乗効果を図っていくことで、日本国内のSDGs目標達成のためのムーブメントのさらなる加速を促します。

山形市の今後4年間の主要な取り組みは、UCCNのミッションステートメントと持続可能な開発目標の達成に直接貢献するものと考えています。私たちは、ネットワークの発展を支援し、文化と創造性を主要な原動力として持続可能な都市開発を促進するという目標の達成に引き続き尽力していきます。

6.3 提案した行動計画を実施するための推定年間予算

提案した4年間の行動計画を実施するための全体的な年間予算の見積りと、地域的・国際的取り組みに対する割合を示すこと。市が拠出し、動員することが期待できる財源のすべてに関する詳細な情報を提供すること。これには、財源と物的資源（人員、施設、設備など）の両方が含まれる。予算を補足する目的で、国内及び/又は国際的な資金調達機関に予定されている、資金調達の申請があれば提示すること。

「山形市発展計画2025」に基づき、行動計画案を含む多様な取組を実施し、創造都市として山形市を推進していきます。2022年から2026年までの年間予算は平均22億8000万円（約2000万米ドル）と見込まれています。このうち、財源の8.5%は国からの補助を受けています。事業費、工事費、人件費を含む文化施設の管理費などが含まれます。80%が創造的な拠点の改修・再建を含む地域プロジェクトに、20%が国際プロジェクトに充てられる予定です。

2017年の申請時に比べて予算が大幅に増加したのは、UCCNに加盟したことにより、市の持続可能な都市開発のための文化と創造性の重要性に対する認識が高まったからだと考えられます。また、2022年から2028年にかけて建設中のプロジェクトがあり、特に新山形市民会館の建設費は推定100億円（約9000万米ドル）を超える予定です。

6.4 広報・啓発計画

ネットワークの目的をより多くの人々に普及し促進するための広報と啓発計画、および提案した行動計画の効果の提示。

ユネスコ創造都市やまがたは、今後も活動や事業の進捗状況を日本語と英語で公式サイト(creative-yamagata.jp)に掲載するとともに、映画都市の共有ウェブサイト(citiesoffilm.org)にも最新情報の投稿を継続していきます。事務局は、Facebook、Twitter、Instagram、YouTubeなどの実績のあるソーシャルメディアプラットフォームを効果的かつたくさんの人に届く広報手段として、また、ベストプラクティスを相互に共有することによる他の創造都市や関係者とのネットワーキングツールとして活用しています。テキストや写真だけでなく、映画都市らしく動画も引き続き活用していきます。

また、オンラインだけでなく、公共広告、出版物やオリジナルグッズ制作にも力を入れ、地域・国・世界レベルで、「ユネスコ創造都市やまがた」としての認知度を高めています。山形駅には、山形市民がユネスコ創造都市ネットワークに参加していることを誇りに思っていることが伝わるようなバナーを設置し、到着した人々をあたたかくお迎えしています。毎月2回市内の全世帯に配布される広報誌には、山形市の創造的活動のニュースや進捗を紹介するスペースを設けています。UCCN で掲げられている7つの創造分野の魅力を公式パンフレットで紹介しており、また、カレンダーやメモ帳、エコバッグなどのグッズは、ゲストやイベント参加者へのプレゼントとして大変喜ばれています。

山形市は、こうしたコミュニケーションツールを通じて、市が創造力と文化の力を都市の持続的発展の戦略的要素としてどのように活用していくかを発信していきます。同時に、チームは世界中のさまざまなイベントに参加し、講演を行うことで、UCCN に参加することの意味についての意識を高め、ベストプラクティスを共有し、同時に学んでいきます。

VII. 新型コロナウイルス感染症への対応または回復のために実施した取り組みについて（任意）

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、各都市は、特に認定された創造分野において、今回の感染拡大が同市の文化的・創造的資本に与えた影響について詳しく説明する必要があると考えるかもしれない。さらに、4年間の行動計画の実施に及ぼす新型コロナウイルス感染症の影響に関する情報を提示することを奨励する。

新型コロナウイルス感染症の影響を緩和し、復興を支援することは、ユネスコとそのすべてのパートナー、特に地域レベルの創造都市にとって、共通の課題である。具体的には、都市が実施する最大5つの主要な取り組み・行動・政策、特に文化的・社会的生活の継続性を取り戻すことや、感染拡大からの都市の復興を促すための様々な施策を提示することができる。

都市間連携に関する情報も報告することができ、このような困難な時代において、国際協力の重要性がさらに高まっている。提案する取り組みには、特に目的、利害関係者、支援対象者、期待される結果、成果、教訓を含めるべきである。

文化・創造分野、及び文化・創造性を通じた市民の日常生活や福祉を支援するための政策の変更又は新たな政策の導入に関連した情報を提供することができる。

映画: ステイホームの親友

新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大する中、山形市では、市民や幅広い層に向けたオンラインコンテンツを提供し、ステイホームの中、ユネスコ創造都市ネットワークや山形市の文化について学ぶ機会を提供しました。

オンライン映画学校（2020年3月）

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、山形国際ドキュメンタリー映画祭事務局、映画館、映画プロデューサー、監督、作家、大学など、多様なパートナーと連携してオンライン映画学校を立ち上げました。この取り組みは、日本の学校が休校になったため、主に自宅で学ぶ学生を対象として開催されました。

1週間にわたるオンラインプログラムは、山形市の映画分野に関連するさまざまな側面をカバーする7つの講座から構成され、映画の歴史、映画制作の基礎、映画に関連する経済的・社会的価値、ユネスコ創造都市ネットワークを含む国際協力基盤の紹介などが含まれました。この一連のオンライン講座の創設は、官民間のパートナーシップ、若者の参加、困難な時期における市民の文化生活へのアクセスと参加を強化しました。

音楽でまちを元気に - プロオーケストラを救うためのクラウドファンディングプロジェクト（2020年6月~9月）

山形市民は、東北初のプロオーケストラである山形交響楽団（YSO）が奏でる音楽とともに育ってきました。ラデク・バボラークのような世界的に有名な音楽家を招いて毎年150回以上のコンサートを開き、若者の音楽への関心を高めるためのスクールコンサートを積極的に開催しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でコンサートを60回以上中止せざるを得なくなり、多額の損失が出ました。そのため、山形市はガバメントクラウドファンディングプロジェクト「音楽でまちを元気に」を発足し、オーケストラの運営と地域における音楽の存続を支援しました。

期間中、山形市は映画都市として、この寄付に人々を誘致するための広報手段として映画を活用しました。山形交響楽団のプロのミュージシャン達が、山形市民が最も愛する舞踊曲を市内の有名観光スポットで披露し、山形交響楽団のYouTube公式チャンネルで動画を配信しました。その結果、新型コロナウイルスの感染拡大と奮闘するこの時期に、彼らの音楽が人々をどのように勇気づけたかを伝える温かいメッセージと共に、全国から合計2200万円を超える寄付が寄せられました。

2021年8月には、支援への感謝を込めて、日本を代表する指揮者の阪哲朗氏や世界的なバイオリニストの前橋汀子氏らを招き「Special Thanks Concert」を開催しました。新型コロナウイルスが落ち着いた暁には、感染拡大により甚大な被害を受けた地元のレストランが集まる市の中心地での演奏を計画しており、音楽がもたらす喜びや創造力を用いて地域社会を応援する予定です。

やまがた創造都市国際会議 2020（2020年12月よりアーカイブ配信）

2020年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、やまがた創造都市国際会議はオンラインで開催されました。この会議は、日本とプサンの映画業界の第一線で活躍する人々の経験や知識、成功事例を共有するとともに、新型コロナウイルスの感染拡大が映画業界とその関係者にどれほど影響を与えたかを発信することを目的に開催されました。

この会議は、ユネスコ創造都市やまがたの紹介、旅番組「映画監督・篠原哲雄さんが巡る「映画の街やまがた」」、篠原氏の基調講演「今、映画に求められること」、シンポジウム「未来をひらく映画のチカラ」の4つのセッションから構成されました。4本の動画はユネスコ創造都市やまがた公式ウェブサイトやYouTubeで公開され、紹介とシンポジウムには英語字幕も付いています。シンポジウムは東京、山形市、プサン間においてオンライン上でアーカイブ配信により開催され、日本の映画界の第一人者である篠原哲雄氏、山形市出身の女優である橋本マナミ氏、プサンを拠点とする映画監督であるキム・ジゴン氏、プサン映画都市の担当者であるキム・アニカ氏など、日本とプサンの映画界の第一人者を迎えました。山形市で映画を撮影した思い出や、コロナ禍における現状と課題、そして、「with コロナ」の状況において、彼らがどのように前進し、克服していくかを議論しました。シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症の影響下にある映画産業の現状を共有し、困難の克服について議論し、知識と成功事例の共有、プサンと山形市の国際協力の強化、そして持続可能な都市開発の原動力としての映画と創造性の力を認識する機会となりました。

やまがた創造都市国際会議 2020 の経済波及効果と経済価値

以下の数値はやまがた創造都市国際会議 2020 の経済波及効果と経済価値を示すものです。新型コロナ感染拡大の影響で、やまがた創造都市国際会議をオンラインで開催し、YouTube にアップロードを行いました。YouTube のアナリティクスによると、4つのセッションの合計視聴回数は1,429回（2021年4月時点）で、約50パーセントが海外からの視聴でした。YouTube にアップされた動画は高い広報効果を持ち、下記の数値を用いて計算した結果、112,692米ドルの経済価値があるといえます。

直接的経済効果：18,115米ドル（1,980,000円）

間接的経済波及効果：30,321米ドル（3,314,150円）

※間接的経済波及効果は日本の総務省から提供されたエクセルツールより算出

YouTube にアップされた「やまがた創造都市国際会議 2020」の間接的経済波及効果と経済価値

CM単価（15秒）

大手キー局：9,152米ドル（1,000,000円）

地方局：228米ドル（25,000円）

※ 価格参考：<https://kokoku-direct.jp>

やまがた創造都市国際会議 2020 の秒数

パート 1 : 900

パート 2 : 1,277

パート 3 : 1,782

パート 4 : 3,505

合計 : 7,414

やまがた創造都市国際会議 2020 の経済価値

= (7,414 ÷ 15) × 228 米ドル = **112,692 米ドル**

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2021 オンライン (2021 年 10 月)

1989 年の設立以来、山形国際ドキュメンタリー映画祭は、創造的なビジョンを促進する山形市の取り組みの中核を担ってきました。YIDFF は、国境を越えた文化の多様性への理解を促進する入り口でもあります。山形市は、参加者がこの映画祭で異文化に対する相互理解を深め、ユネスコ映画創造都市である山形を体験し、思い出に残る時間を過ごしていただきたいと願ってきました。

新型コロナウイルス感染症拡大に終わりが見えない中、2021 年はすべてオンラインでの開催となりました。山形はこの危機を、映画祭が長年培ってきた精神を伝えつつ、新たな観客を開拓する柔軟性を示す機会と捉えました。今年の YIDFF で行われた日時指定での上映や監督の質疑応答は、参加者が劇場で映画を観るような、一期一会の体験ができる場を整える取り組みです。

新進気鋭のドキュメンタリー作品の豊富なラインナップの他にも、本映画祭の最大の特徴であり、人気の秘密は、監督と観客、観客同士の交流を促進する場の提供にあります。映画祭事務局では、各国の映画監督を招き、34 回のライブ Q&A セッション、14 回のオンライントークイベント、3 回のオンラインシンポジウム、1 回のオンラインワークショップを配信したほか、バーチャルな交流の場として「オンライン香味庵クラブ」を映画祭期間中に 7 夜にわたって開催しました。また、映画人と映画ファンの交流の場として愛されてきた「香味庵クラブ」は、老舗漬物店「丸八やたら漬」の閉店に伴い、閉めざるを得ませんでした。今年の映画祭では、「香味庵クラブ」をオンライン化し、映画祭参加者が楽しく過ごせるバーチャルな空間を提供しました。また、YIDFF 2021 のオープニング作品として、創業 135 年の店舗と香味庵の記憶を描いた映画『丸八やたら漬 Komian』を上映しました。

2021 年の開催は、市、映画祭事務局、映画人、観客、関係者全員にとって最大のチャレンジでした。しかし、山形はその創造性を発揮し、映画祭の最大の目的である「人と映画、人と人を結びつける」ことを見事に達成しました。